

□屋根

スパニッシュ瓦またはS型瓦葺とする。パラペットの天端も同様に瓦葺とする。装飾パラペットも瓦葺きとする。  
瓦色は赤色（10R 3.5/7.5）近似色



屋根・パラペット



装飾パラペット

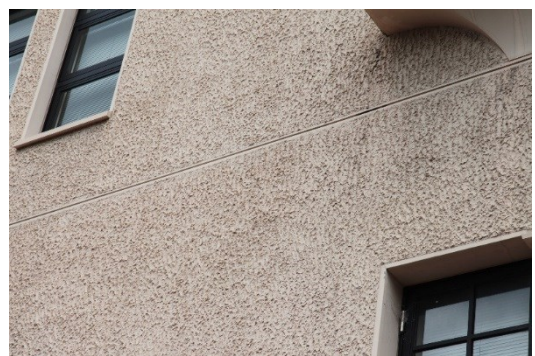
□サッシ

色はこげ茶色とする。



□外壁

タッコの引抜仕上とし、色彩は赤みをおびたベージュ色とする。  
外壁色は（10YR7.5/2）近似色



□屋上に設置される設備機器等

周辺からの眺望に配慮し、目隠壁等を設ける。



□巾木

人造石洗い出し仕上げとする。



□バルコニーの手摺

鉄製（サッシュ色）とし、RC造の場合は外壁と同等の仕上げとする。





# 関学ゾーン保全手法（案）

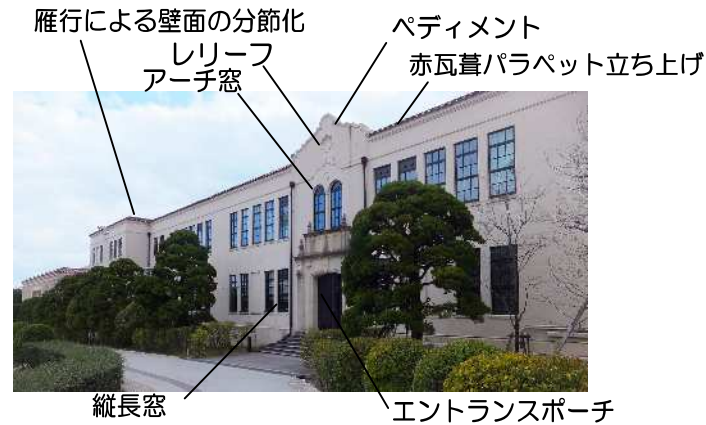
## 共通保全手法

■キャンパス創設当初からのスパニッシュ・ミッション・スタイルによる独特の風格と統一感のあるキャンパスの佇まいを保全・育成していく。

手法1：外壁の色彩、テクスチャーをそろえる等、既存校舎との調和を図る。

手法2：スカイラインは、赤瓦を葺いた納まりとし、パラペット立ち上げやペディメント、縦長窓、アーチ窓、レリーフ、エントランスポーチなど既存校舎との意匠の連携を図る。

手法3：壁面の分節化を図り既存校舎の持つスケールとの調和を図る。



■スパニッシュ・ミッション・スタイルの校舎と一体不可分な樹木や外構、校舎間の景観木や通路、水路、池泉、周辺緩衝緑地などのランドスケープ等、創設当初から丹精込めて育てられてきたキャンパス景観を保全・育成する。

手法1：緑豊かな景観形成に寄与する樹々を「景観重要樹木」等の指定を行う。



手法2：錆御影の玉石や雑石の石積による縁取りや錆砂利洗い出し舗装など、自然石の風合いを活かした外構のしつらえを基本とする。



## 中央広場空間保全手法

■スパニッシュ・ミッション・スタイルの校舎が、広場を挟んで南北に擬対照的に配置される中で、長円形の広場東西の中心線が正門から時計台を貫く軸線となっており、それに伴って形成されている甲山への劇的な眺望景観を保全する。

手法1：現状における甲山への眺望を確保するため、正門付近からの甲山への眺望規制(高さ、壁面位置)を行う。



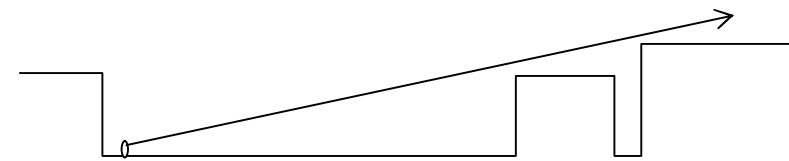
手法2：中央広場に面する校舎の現状における配置・形態等を確保するため、「景観重要建造物」等の指定を行う。



■広場に面する校舎のファサード・スカイラインや植栽・外構等で構成された、キャンパス創設当初から継承されている開放感のある広場空間を保全する。

手法1：中央広場に面する校舎の現状における配置・形態等を確保するため、「景観重要建造物」等の指定を行う。

手法2：開放感のある広場空間を確保するため、上記以外の校舎の壁面位置、高さ等の制限を行う。



## プロムナード空間保全手法

■スパニッシュ・ミッション・スタイルの校舎が、道路を挟んで東西に連続的に配置される中で、壁面が揃いスカイラインが調和する通り景観の保全・育成に努める。

■楠、樺、孟宗竹を主体とした並木と刈り込まれた緑地帯、シンプルデザインのストリートファニチャーやシンプルで低彩度な舗装材などで構成された、落ち着いたあるゆったりとした歩行者空間の保全・育成に努める。

手法1：壁面位置の制限と壁面後退部分の緑地指定により、緑地軸を形成する。(※バスベイ部分は除く)

